

歯科医院の

感染対策 マネジメントブック

チームで
取り組む

世界基準の
インфекションコントロール

著 佐野喬祐



医歯薬出版株式会社

第 1 部

インфекションコントロールを始める前に

1章

感染対策で一番大切なこと

2章

汚染と感染と感染症

- 私たちはなぜ感染対策をしなければならないのでしょうか？
- 感染を成立させないためにはどうすればよいのでしょうか？
- 感染対策を行うにあたって、チームで取り組むべきことは何でしょうか？

この答えを見つけましょう



1章

感染対策で一番大切なこと

Philosophy of Infection Control

〈本章の学習ポイント〉

- 感染対策の本質的な意味は何か？
- 感染対策を正しく実践するうえで、医療者個人および医院に求められることは何か？
- 院内の感染対策においてヒューマンエラーを防ぐにはどうすればよいか？

■ インфекションコントロールって何だろう？



今日はうちの院長に言われて、感染対策を学びに来ました。よろしくお願いします！ 先生はドイツまで研修に行かれたり、文献もたくさん読まれたりしていると聞いたのですが、なぜ感染対策に興味を持たれたんですか？



いや、私も初めから興味を持っていたわけではないんですよ。前の勤め先で、ある日、院長から急に感染対策の責任者を任せると言われて、院内のルールを作ることになったんです。でもその頃は、とりあえず滅菌しておけば大丈夫だろうとか、歯科助手さんに任せておけばいいやとか、本当にテキトーで。これじゃあまずいと思って、勉強し始めました。

海外へ研修に行ったのは、ドイツの RKI（ロベルト・コッホ研究所）など優れたガイドラインがあり、それに基づいた感染対策が一般の歯科医院でも徹底されていて、参考になると思ったからです。

✕ Clean ○ Hygienically Safe

単に清潔にすることではなく、**衛生的安全性を確保すること**

図1 インфекションコントロール（感染対策）とは

そうやって学んでいく中で、正しい医療は安全が根底にあってこそ成り立つもので、その安全を担保するのがインフェクションコントロール、すなわち感染対策だと気づかされました。感染対策を行う目的がはっきりし、重要性を認識できたことで、必要なことには費用や人手を割き、無駄は省き、確実に感染をコントロールできるような医院のシステムを作ることができたと思います。カオリさんには、海外のガイドラインや文献などを基に私の医院で実践している感染対策について、お話ししていきますね。



はい、しっかり勉強して院長に報告します！



では早速ですが、感染対策と言われてカオリさんがイメージするものは何でしょうか？



診療室内をきれいにしたり、使い終わった器具を滅菌したりすることでしょうか？



それも感染対策において大切な作業ですが、覚えておいてほしいのは、私たち医療従事者が行う感染対策は、単に清潔にするということではなく、**衛生的安全性を確保するための医療活動**であるということです（図1）。

さまざまな患者さんが来院し血液や唾液に曝露される歯科医院は、感染性病原体と接触する可能性の高い場所です。私たちは一丸となって感染をコントロー

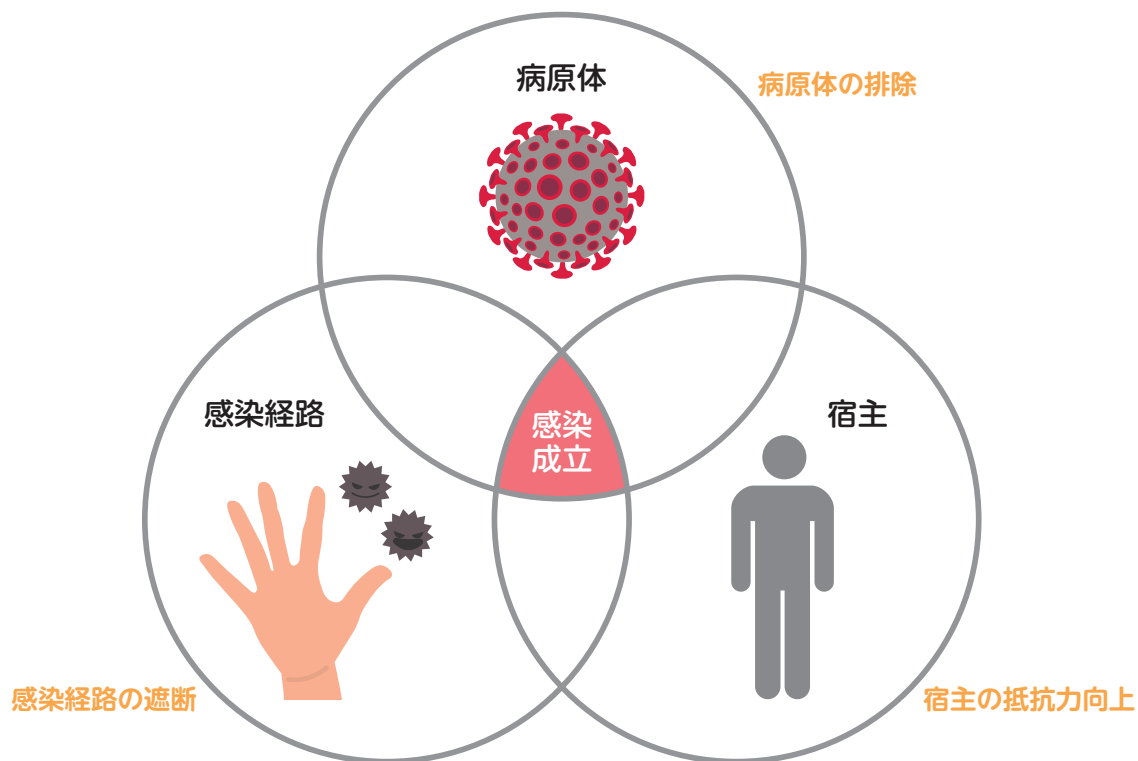


図3 感染成立の3要素
3つの要素が重なると、感染が成立する



そうです！ 感染成立の3要素のどれかを阻止すれば、感染を防ぐことができます。滅菌や消毒で病原体自体を排除する，手指消毒やマスクの装着で感染経路を遮断する，栄養と休養を取って宿主の抵抗力を上げる，などですね。これらを組み合わせて確実に感染をコントロールすることが大切です。

■ 感染＝発症ではない



感染が成立すると，熱や咳などの症状が出てくるのですか？



感染とは病原体が宿主の体内に侵入・定着し，増殖することで（図4），それによって自覚症状や他覚症状が出る病気のことを「感染症」と言います（図5）。ただし，細菌やウイルスに感染しても症状が出るとはかぎりません。体内に病原体を保有していても症状が出ていない状態を「不顕性感染」と言います（図6）。

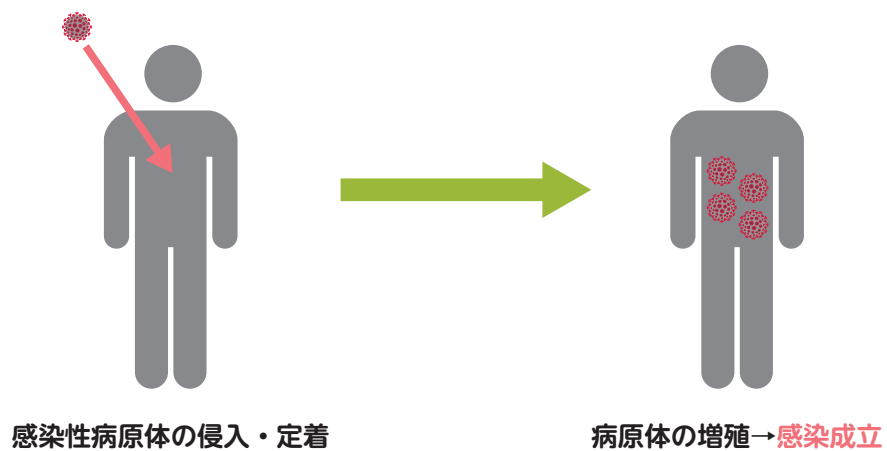


図4 感染の成立

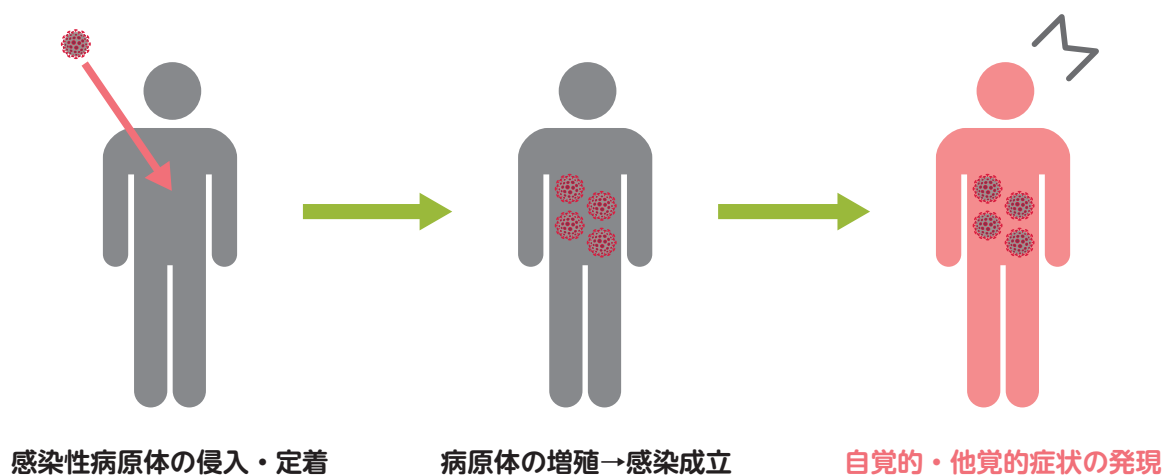


図5 感染症

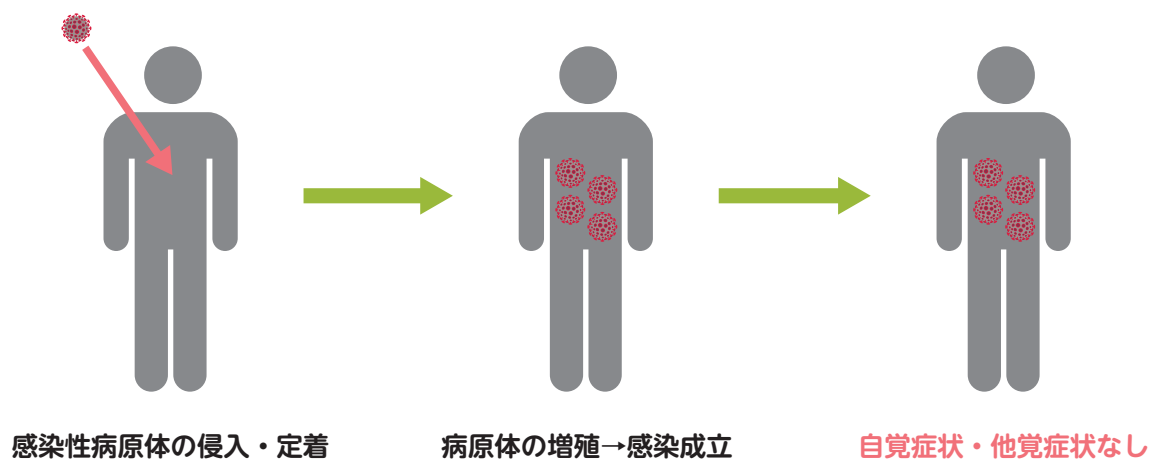


図6 不顕性感染